

豊岡市地域包括支援センターの設置状況について

(2021年5月1日現在)

名 称	人 口 (第1号被保険者数) 高齢化率	要支援・ 要介護 認定者数	配置職員	設置形態
豊岡地域包括支援センター 対象区域面積 133.40 km ²	40,007 (12,231) 30.6% 港地区除く	2,154	社会福祉士 2 看護師 4 主任介護支援専門員 1 主任介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(非常勤) 2 事務 1	委託 豊岡市社会福祉協議会
			小 計 12	
城崎・竹野地域包括支援センター 対象区域面積 162.93 km ²	10,004 (4,110) 41.1% 港地区含む	798	看護師 1 看護師(嘱託) 1 社会福祉士 1	
城崎・竹野地域包括支援センター 竹野分室 再掲 対象区域面積 102.79 km ²	再掲 4,233 (1,783) 42.1%	再掲 326	社会福祉士 1 主任介護支援専門員 1	
			小 計 5	
日高地域包括支援センター 対象区域面積 150.24 km ²	16,178 (5,540) 34.2%	1,072	主任介護支援専門員 1 看護師(嘱託) 1 社会福祉士 2 介護支援専門員 1 介護支援専門員(非常勤) 1 事務(嘱託) 1	
			小 計 7	
出石・但東地域包括支援センター 対象区域面積 251.09 km ²	13,232 (5,032) 38.0%	960	保健師 1 主任介護支援専門員 1 社会福祉士 1	
出石・但東地域包括支援センター 但東分室 再掲 対象区域面積 161.96 km ²	再掲 3,875 (1,726) 44.5%	再掲 377	社会福祉士 2 介護支援専門員(嘱託) 1	
			小 計 6	
豊岡市合計	79,421 (26,913) 33.9%	4,984	合 計 30	

2020 年度 豊岡市地域包括支援センターの事業報告

2020 年度 地域包括支援センター活動目標『高齢者が、可能なかぎり住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう市や地域住民、関係機関との連携・協働による地域包括ケアシステムの構築に向け取り組む』のもとに、以下の活動を行った。

(人数等実績数値は、各年度ともに 3 月末現在)

1 総合相談支援業務

方針（1）高齢者のさまざまな相談を受け止め、生活環境の実態把握を行い適切なアセスメントを実施し、スクリーニングのもと対応する。

ア 相談対応の中で、適切なサービスや社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結に向け取り組む。

【活動実績】

総合相談については、相談時点での緊急度や他職種との協議の必要性をスクリーニングして対応し、介護支援専門員や他機関につなぐこと、インフォーマルサービスも取り入れながら支援し、終結を意識して対応した。

【課題】

本人が支援を望んでいない等の困難事例に長年関わり続けるケースがあり、終結できず対応方法に苦慮するケースが増えている。また、認知症の相談件数や早急な対応が求められる末期がんの相談件数が増えている。

方針（2）支援を必要とする高齢者を支える地域におけるネットワーク構築を行う。

ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター等と連携を図り、支援の必要な高齢者を地域の中で支えるネットワークづくりを行う。

【活動実績】

地域の会議への参加や、個別ケア会議にて関係者や地域住民と情報共有・役割分担し、ネットワークの構築を行った。顔の見える関係が構築できたことで、緊急時の対応や支援方法を共有し連携することができた。

8050 問題等の世帯が増加し、高齢者を含む家族の支援が必要な世帯も増加しており、関係機関や多職種で連携をしながら支援を行った。

※スクリーニング…ふるいにかけて条件に合うものを選び出す。優先順位や緊急性判断にも用いる。

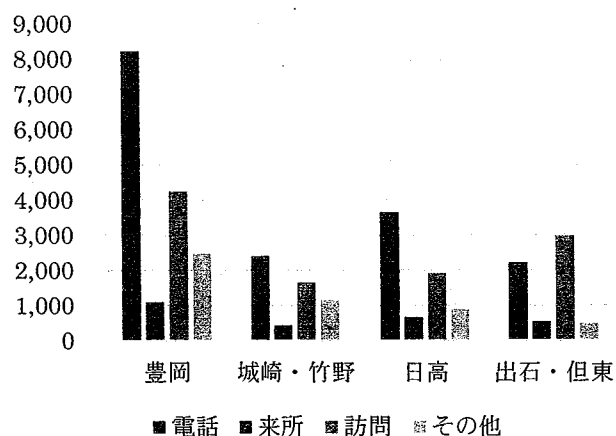
※インフォーマルサービス…介護保険や公的以外のサービス、家族等の支援や地域の集まり見守り等。

※8050 問題…80 代の親が 50 代の子どもの生活を支えるという問題。背景にあるのは子どものひきこもり。

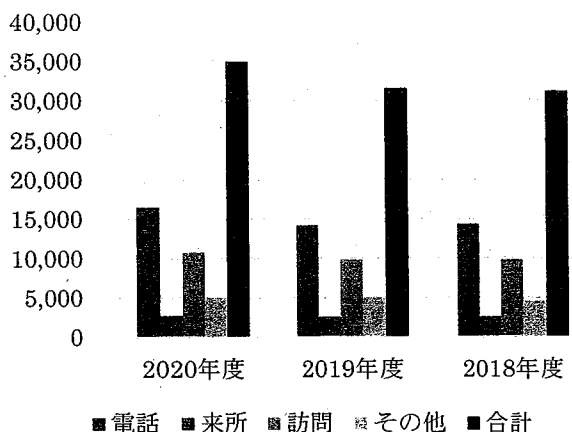
【方法別相談延件数】

	電話	来所	訪問	その他	合計
豊岡	8,216	1,089	4,242	2,465	16,012
城崎・竹野	2,398	429	1,651	1,144	5,622
日高	3,643	653	1,900	882	7,078
出石・但東	2,205	540	2,961	479	6,185
2020年度	16,462	2,711	10,754	4,970	34,897
2019年度	14,143	2,556	9,810	5,037	31,546
2018年度	14,297	2,548	9,783	4,554	31,182

方法別相談延件数



方法別相談件数年度比較



* 相談の形態は、電話が最も多く、続いて訪問が多い。

* コロナ禍であり、来所や訪問対応時はマスクや手指消毒を励行し、必要に応じて、検温やフェイスシールドの着用をし、感染予防に努めた。

* 今年度は、相談件数が3,000件以上増加している。

【相談者延人数】

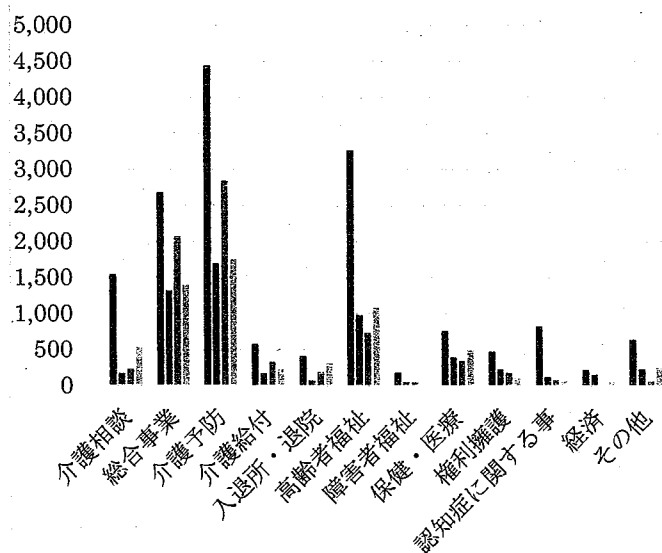
	本人	家族 親類等	知人 近隣	民生 委員	ケアマネ ジャー	サービス 事業者	医療 機関	行政	社協	その他	合計
豊岡	4,167	3,467	102	173	2,221	2,860	1,084	1,251	610	291	16,226
城崎・竹野	2,303	1,606	125	103	327	1,571	355	607	413	86	7,496
日高	2,816	2,268	45	76	707	2,634	544	640	220	74	10,024
出石・但東	3,330	2,638	150	192	422	1,388	678	460	137	134	9,529
2020年度	12,816	9,979	422	544	3,677	8,453	2,661	2,958	1,380	585	43,275
2019年度	11,970	9,291	517	555	3,390	8,024	2,422	2,789	968	676	40,602
2018年度	11,636	9,476	448	568	3,777	8,368	2,507	3,110	1,149	534	41,573

* 相談者の内訳は、本人が最も多く、次いで家族・親類等、サービス事業者の順となっている。遠方に住む家族が帰省できず支援が受けにくい状況も相談につながっている。

【内容別相談件数】 ※重複あり

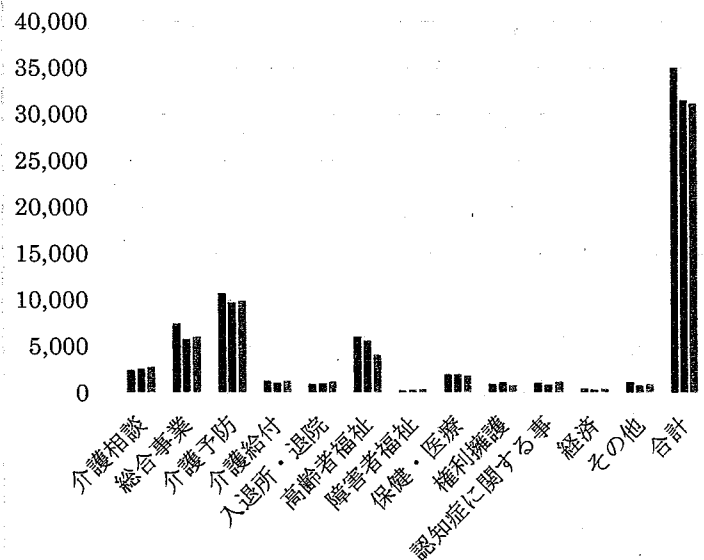
	介護相談	総合事業	介護予防	介護給付	入退所・退院	高齢者福祉	障がい者福祉	保健・医療	権利擁護	認知症に関する事	経済	その他	合計
豊岡	1,538	2,683	4,432	582	407	3,262	181	764	476	824	221	642	16,012
城崎・竹野	171	1,317	1,694	171	76	981	51	392	228	126	154	231	5,592
日高	231	2,065	2,838	332	194	734	48	344	181	83	15	61	7,126
出石・但東	531	1,397	1,752	228	316	1,086	14	493	104	60	62	253	6,296
2020年度	2,471	7,462	10,716	1,313	993	6,063	294	1,993	989	1,093	452	1,187	35,026
2019年度	2,583	5,798	9,721	1,077	1,054	5,641	365	2,027	1,155	870	389	866	31,546
2018年度	2,785	6,047	9,915	1,316	1,232	4,106	397	1,887	838	1,217	465	977	31,182

内容別相談件数



■豊岡 ■城崎・竹野 ■日高 ■出石・但東

内容別相談件数年度比較



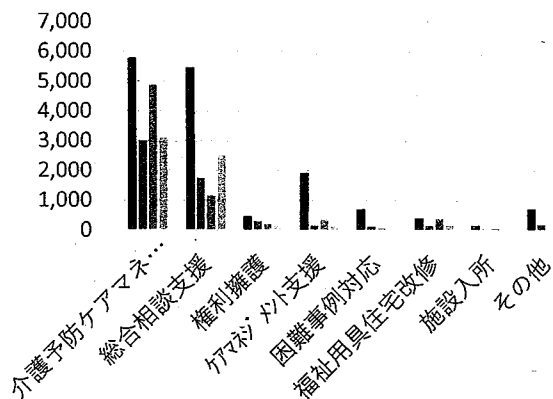
■2020年度 ■2019年度 ■2018年度

* 内容別相談件数では、介護予防に続き総合事業が多く、次いで高齢者福祉となっている。コロナ禍により、自宅にこもりがちで生活が不活発となり、運動の機会や交流を求めてデイサービス等のサービス利用を希望する高齢者が増加したことも一因となっている。

【対応内容（件）】 ※重複あり

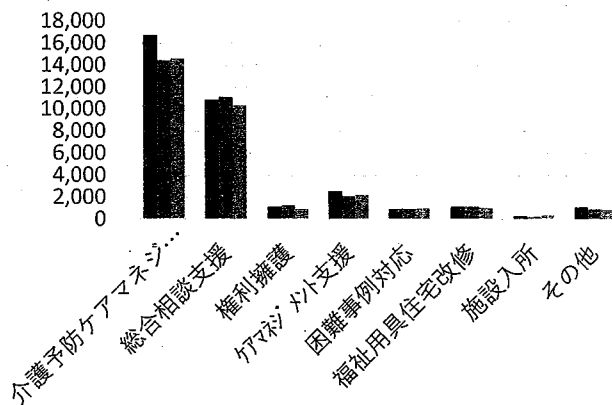
	介護予防ケア マネジメント	総合相談 支援	権利擁護	ケアマネジ メント支援	困難事例 対応	福祉用具住 宅改修	施設入所	その他	合計
豊岡	5,777	5,455	467	1,926	706	408	159	713	15,611
城崎・竹野	2,995	1,739	299	158	124	155	35	188	5,693
日高	4,865	1,151	197	349	72	379	50	33	7,096
出石・但東	3,092	2,502	148	123	24	172	27	171	6,259
2020年度	16,729	10,847	1,111	2,556	926	1,114	271	1,105	34,659
2019年度	14,416	11,111	1,275	2,105	953	1,155	222	958	32,195
2018年度	14,602	10,342	908	2,223	977	1,042	353	875	31,322

対応内容



■豊岡 ■城崎・竹野 ■日高 ■出石・但東

対応内容（年度比較）



■2020年度 ■2019年度 ■2018年度

*対応内容については、介護予防ケアマネジメントが最も多く、続いて総合相談支援となっている。豊岡のケアマネジメント支援が多い理由は、居宅介護支援事業所数も介護支援専門員数も他圏域合計の倍以上であり、新規事業所が開設するのも豊岡であることが、主な要因である。

【広報活動件数】

	対象者	実施件数	延参加人数
豊岡	民生委員児童委員・住民・学生・企業等	10	201
城崎・竹野	民生委員児童委員・住民・学生・老人会等	13	207
日高	住民・学生・施設・老人会等	7	170
出石・但東	民生委員児童委員・住民・学生等	12	202
合計		42	780

*コロナ禍で地域に出向く機会が減少したが、学校行事の縮小に伴い福祉学習の一環として認知症サポーター養成講座の実施件数が増加した圏域もあった。

2 権利擁護業務

- 方針（1）高齢者虐待対応力の向上を図り、関係機関との連携のもと、適切に対応する。
- ア 高齢者虐待対応向上力研修の参加や高齢者虐待専門職チームの積極的な活用により対応力向上を図る。
 - イ 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿った対応をすすめ、終結に向けて取り組む。

【活動実績】

高齢者虐待の相談対応においては、「豊岡市高齢者虐待対応マニュアル」に沿って、高齢者宅等を訪問し虐待の事実確認やコア会議を行い、市と連携のもと支援方針を決定し、速やかな対応を行うことに努めた。また高齢者虐待専門職チームを積極的に活用し、高齢者虐待対応能力向上を図った。高齢者虐待専門職チームの弁護士と社会福祉士の派遣により、経済的虐待の疑いのある事例を3回にわたり検討を行った。法的な視点で、事実確認の視点や手法の提案があり、支援者スキルの向上につながった。虐待認定には至らなかったが、成年後見制度の市長申し立てにおいて本人の権利を守る視点などの提案があり、支援の方向性が確立された。

【課題】

高齢者虐待対応においては、対応困難なケースが多く、何度も訪問や面接を重ねる必要がある。関係機関と連携しながら終結を意識した対応を行っているが、1件あたりに相当数の時間を費やしているのが現状である。

- 方針（2）成年後見制度の普及啓発と活用促進を図る。

- ア 成年後見制度の相談内容を分析し、ニーズの把握や制度利用を促進するため課題の把握を行う。

【活動実績】

成年後見制度についての情報提供や、利用が必要と思われる方に寄り添いながら申し立て支援を行った。

【課題】

成年後見制度の必要性があるケースが増加しているが、裁判所や病院受診の同行、関係機関で支援方針を共有するための個別ケア会議を開催する等、対応にかなりの時間を費やすため支援が追いついていないのが現状である。

※高齢者虐待専門職チーム…弁護士や社会福祉士が法律・福祉の専門性をもって、虐待対応の適正性、介入方法、保護の後の対処法などの相談に応じる。

※市長申し立て…成年後見制度の利用が必要な状況であるにもかかわらず、本人や家族ともに申立を行うことが難しい場合など、特に必要があるときは市町村長が申し立てすることができる。

方針（３）関係機関と連携し、消費者被害の防止に努める。

ア 消費者被害のケースにおいては、消費生活センターにつなぎ、連携して対応を行う。再発防止のために、民生委員や介護支援専門員等と情報共有を行う。

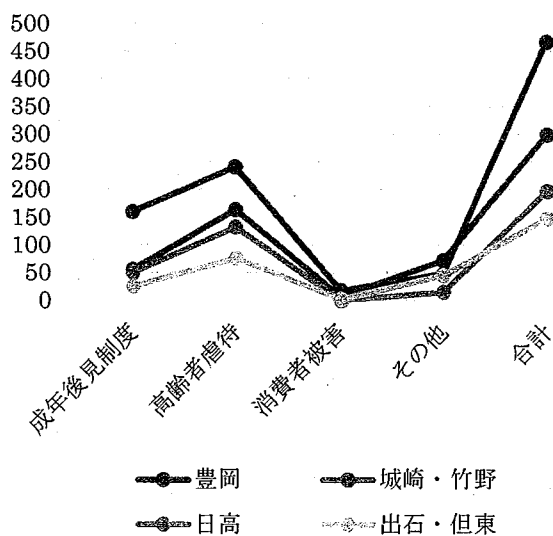
【活動実績】

消費生活センターの相談員との意見交換を行い、最近の消費者被害の傾向と対応方法を学ぶことができた。消費者被害は世相や時代を反映しており、コロナ禍という特殊な状況下で新たな手口が出てきている。常に最新の情報を把握し、消費者被害の防止を図るために情報共有と関係者間の連携が必要であることを再認識した。

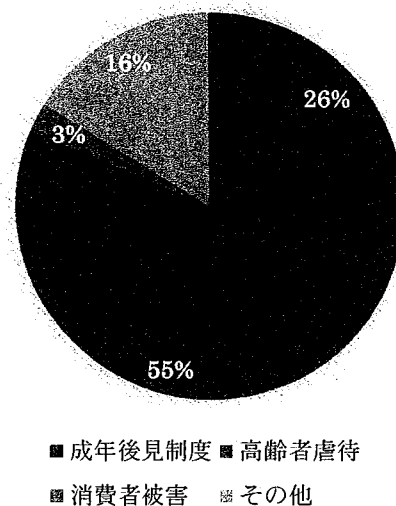
【権利擁護に関する相談】

	成年後見制度	高齢者虐待	消費者被害	その他	合計
豊岡	160	241	18	48	467
城崎・竹野	56	164	7	72	299
日高	50	132	0	15	197
出石・但東	25	76	2	45	148
2020年度	291	613	27	180	1,111
2019年度	214	881	24	156	1,275
2018年度	169	604	23	112	908

権利擁護に関する相談



2020年度



* 権利擁護に関する相談の中では、「高齢者虐待」「成年後見制度」が8割を占めている。特に成年後見制度の相談件数は増加傾向が顕著である。

【虐待対応件数】 * 38 件の虐待対応を行った

	分 離			分離せず		成年後見制度申立	終結	対応継続
	特養へ措置	養護へ措置	入院・施設等へ入所	在宅サービス導入調整等	その他			
豊岡	1		3	7	6	1	11	6
城崎・竹野			3	3	2		5	3
日高		1		4	2		4	3
出石・但東	1			1	4		3	3
合計	2	1	6	15	14	1	23	15

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

方針（1）介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。

- ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。
- イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。

【活動実績】

介護支援専門員が日常的業務をスムーズに行えるように、月1回、介護支援専門員連絡会を開催し、最新の情報発信を行うとともに、関係機関と連携できる場を持った。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防の観点から、オンライン会議等の導入など会議等の開催方法を検討する必要がある。

方針（2）介護支援専門員の質の向上を図る。

- ア 介護支援専門員が抱える困難事例について、再アセスメントを行い、支援方法を検討し専門的な助言指導する中で、介護支援専門員によりその支援スキルを高める後方支援を行う。
- イ 対人援助技術を磨くための研修を行う。また、主任介護支援専門員には、管理者としての役割を意識できるよう支援を行う。

【活動実績】

介護支援専門員の抱える支援困難事例について、同行訪問や個別ケア会議の実施により共に考え、介護支援専門員の支援スキルを高める後方支援を行った。介護支援専門員が抱える困難ケースへの対応の相談も年々増加しており、同行訪問やサービス担当者会議への参加、必要に応じ個別ケア会議を開催し支援を行っている。

【課題】

困難事例については、介護支援専門員と一緒に支援を進めることもあるが、解決までに時間がかかり成果が見えにくいことが多い。

方針（3）介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるように支援する。

ア 介護支援専門員が災害時の対応策を検討する中で、地域状況等を把握できるような機会を持つ。

【活動実績】

介護支援専門員が社会資源を意識できるように研修会を開催したり、コロナ禍の対応について学習する機会が持てた。

【介護支援専門員支援回数】

	ケース 検討会議	同行訪問	個別相談 情報提供	サービス 担当者会議	合計
豊岡	56	314	1,653	45	2,068
城崎・竹野	5	57	100	13	175
日高	23	54	318	20	415
出石・但東	8	61	66	14	149
合計	92	486	2,137	92	2,807

【介護支援専門員ネットワーク連絡会開催実績】

	回数	延参加人数
豊岡	2回	42人
城崎・竹野	0回	0人
日高	1回	7人
出石・但東	0回	0人
合計	3回	49人

*コロナ禍のため、介護支援専門員ネットワーク連絡会を自粛する圏域が多かった。
今後、開催方法を検討する必要がある。

4 地域ケア会議の推進

方針（１）個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。

- ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、課題解決に向けて検討する。

【活動実績】

困難ケース等については、随時、個別ケア会議を開催し関わる関係機関にてケースの情報共有と課題解決に向け検討した。

【課題】

複合多問題世帯や認知症のケースなど困難事例の検討が多く占めている。何度も個別ケア会議を重ね、関係機関で情報を共有し、支援方針の決定、役割分担を行い、本人及び世帯の支援を行った。

方針（２）自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、地域課題を抽出し整理する。

- ア 月１回、自立支援型ケア会議を実施し、多職種による検討を行い、介護支援専門員に提案を行う。
イ 多職種で地域課題を共有し整理する。

【活動実績】

月１回、自立支援型ケア会議を開催し、本人の望む生活の実現に向けたケアプランが作成できるよう、多職種による検討を行い、介護支援専門員の資質向上を図れるよう努めた。

【課題】

2020年度よりケースの検討後、個別の課題から見えた地域課題について、圏域ごとに共有整理を行ない、圏域で取り組める課題については、解決に向け少しずつ進めている。

今後は、豊岡市全体での地域課題の検討を関係機関と一緒に進めていく必要がある。

【自立支援型地域ケア会議開催件数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
23	20	17	20	80

・毎月１回、約２ケースの検討を行った。

【個別ケア会議開催回数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
24	5	13	5	47

5 介護予防ケアマネジメント業務

方針（1）自立した生活のための能力維持と向上が図れるよう支援する。

- ア 介護予防について広報誌による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動を進める。
- イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。
- ウ 自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

【活動実績】

高齢者の自立支援につながるように、本人・家族の意向を聴き、望む生活に向けた目標設定を行った。その上で、本人の選択に基づき適切なサービスを利用しながら、自立した生活が送れるようケアプランの作成を行った。

【課題】

要支援や事業対象者の介護予防ケアマネジメントの中でも、ひとり暮らしや高齢者世帯の増加で、受診同行に時間を要すことや、本人や家族が認知症や精神疾患・発達障害などを抱えており、支援が困難になる対象者が増加している。

【認定区分別介護予防等サービス計画作成件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	161	168	467	293	293	302	307	308	293	270	259	286	3,407
要支援1	639	643	665	666	684	699	697	712	706	699	700	714	8,224
要支援2	405	416	416	421	410	413	408	408	410	411	394	394	4,906
合計	1,205	1,227	1,548	1,380	1,387	1,414	1,412	1,428	1,409	1,380	1,353	1,394	16,537
豊岡	521	537	592	562	559	568	574	585	575	587	573	580	6,813
城崎・竹野	205	193	263	229	232	243	248	250	248	245	233	242	2,831
日高	249	266	300	294	299	299	296	309	307	305	305	302	3,531
出石・但東	230	231	393	295	297	304	294	284	279	243	242	270	3,362

- ・計画作成件数は6月が1,547件と最多となっている。コロナ禍にて4・5月は、支え合い通所事業及び運動からだ元気塾が休止となり、6月に請求した結果である。

介護予防ケアプラン作成件数

【指定介護予防支援事業者・地域包括支援センター作成分】

	2020年度	2019年度	2018年度
合計	9,628	9,270	8,092

【委託事業者作成分】

	2020年度	2019年度	2018年度
合計	6,909	6,824	6,820

* 地域包括支援センターの直接作成プラン件数が、2020年度は2018年度に比べ1,500件以上増加しているが、委託事業所によるプラン作成件数はほぼ横ばい状態である。

6 生活支援体制整備の推進

方針（1）生活支援コーディネーター等と連携し地域における課題解決のネットワークを構築する。

ア 高齢者やその家族を支える地域の社会資源を把握する。

イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場をつくり、課題解決に向けた取り組みをすすめる。

【活動実績】

コロナの影響により、生活支援コーディネーター等と地域に出向く機会は少なかったが、地域における社会資源を把握し、地図上に分かりやすく表示することに取り組んだ圏域や、地域の特性や地域住民の関係性を知ることができ、住民同士の支え合いが把握できた圏域もあった。

7 認知症施策の推進

方針（1）認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。

ア 多世代を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、対象者にわかりやすく伝え、理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。

【活動実績】

認知症相談センターとして、本人や家族、関係機関から認知症の相談を受け、早期に医療機関受診や介護保険サービス利用につなぐ等、本人が住み慣れた自宅で生活できるよう支援体制を整えた。同時に、認知症についての正しい知識と理解の普及啓発を行い、認知症になっても安心して住み続けられる地域づくりに努めた。

方針（２）認知症の早期発見・早期対応に努める。

- ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を居宅介護支援事業所や民生委員等に行い、早期発見につなげる。
- イ 認知症初期集中支援推進事業のチーム員として、早期にかかわることで、適切な医療・介護・社会資源につなぐ。

【活動実績】

認知症初期集中支援推進事業のチーム員として、認知症やその疑いのある方に早期に関わり、適切な医療・介護・地域の見守りにつなげる取組みをすすめた。

【課題】

認知症初期集中支援については、『多職種の意見が聞ける』『計画的にケースに関われる』という成果の反面、『早期に対応が必要なケースは上げにくい』『困難事例は成果が得られなかった』という声もあり、認知症初期集中支援事業に上がってくる件数が少ない現状がある。

【認知症相談延件数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
824	126	83	60	1,093

【認知症サポーター養成講座開催回数】

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
5	5	4	0	14

【認知症初期集中支援対応件数】

	前年度からの継続	新規	終了	4月以降継続
2020年度	3	10	5	8
2019年度	3	8	8	3
2018年度	—	8	5	3

※生活支援体制整備事業…市町村の日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」と「協議体」を配置して、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進める。

※認知症初期集中支援チーム…認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる。医療や介護サービス等につなげていけるような集中的な支援を行い、認知症の方やその家族を支える。

2020年度豊岡市地域包括支援センター事業の評価

1 評価の目的

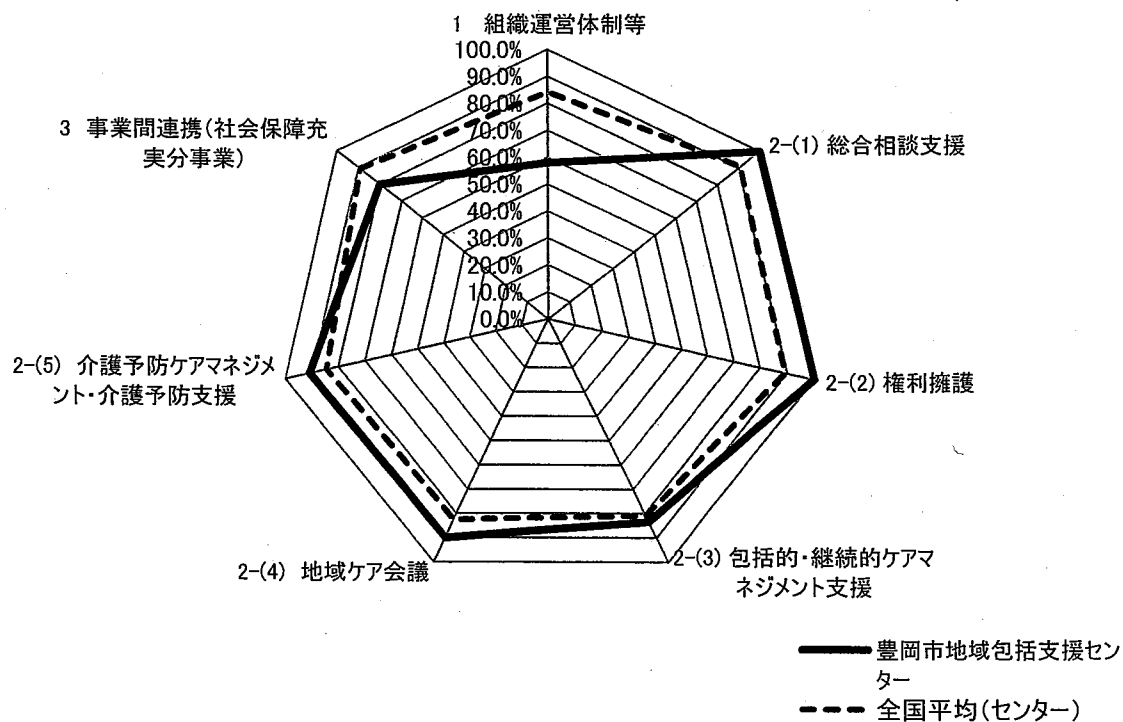
豊岡市地域包括支援センターの運営体制、業務内容や業務実績について評価を実施し、業務の実施状況や課題を把握することで、今後の取り組むべき業務を明確にするとともに、地域包括支援センターの機能強化を図ることを目的とする。

2 評価の対象期間・実施方法

- 対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日
- 実施方法：国が策定した全国統一の評価指標により評価を実施

3 評価結果

豊岡市地域包括支援センターと全国平均の比較



「全国調査結果」は、2020年度(2019年度分)の全国調査結果数値です。

資料3

2020年度地域包括支援センター事業等収支決算集計表

(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	67,979,672	68,810,578	-830,906
城崎・竹野地域包括支援センター	35,619,160	32,739,584	2,879,576
日高地域包括支援センター	42,848,896	36,298,677	6,550,219
出石・但東地域包括支援センター	41,134,580	36,679,748	4,454,832
全地域包括支援センター合計	187,582,308	174,528,587	13,053,721

2021 年度 豊岡市地域包括支援センター事業計画

【地域包括支援センター活動目標】

豊岡市老人福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本理念「みんなで支え合い笑顔あふれる まちづくり」の実現に向けて、高齢者が可能なかぎり住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう地域課題を把握し、市や地域住民、関係機関との連携・協働により、地域共生社会（「高齢」「障害」といった縦割り型福祉ではなく、生活上の困りごとを抱えた人を地域で幅広く支えることが出来るような包括的支援）を見据えた地域包括ケアシステム構築の推進に向け取り組む。

1. 総合相談支援業務

方針(1) 高齢者のさまざまな相談を受け止め、心身の状況や家庭環境等の適切な実態把握を行い、スクリーニングのもと対応する。

ア 相談対応の中で、必要に応じ適切なサービスや社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結に向け取り組む。

方針(2) 支援を必要とする高齢者の把握及び継続的な支援を行うため、地域における様々な関係者とのネットワーク構築を行う。

ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター等と連携を図り、支援の必要な人を地域の中で支えるネットワークづくりを行う。

2. 権利擁護業務

方針(1) 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿い、関係機関との連携のもと終結を目指す。

ア 高齢者虐待対応力向上研修に社会福祉士以外の専門職も積極的に参加し、事例に即した適切な対応が出来るよう取り組む。

方針(2) 必要な人が成年後見制度の利用が出来るよう支援する。

ア 必要な人に成年後見制度の利用が繋がるようにスクリーニング力をつける。

方針(3) 関係機関と連携し、高齢者の消費者被害の防止に努める。

ア 但馬消費生活センターや豊岡市消費生活センターと連携し、意見交換・情報交換を行い、高齢者の消費者被害の防止に努める。

※ スクリーニング = ふるいにかけて条件に合うものを選び出すこと。

ここでは、優先順位や緊急性の判断のためにも用いる。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

方針(1) 介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。

ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。

イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。

方針(2) 介護支援専門員の質の向上を図る。

ア 介護保険制度についての理解を深められるように、研修会を開催したり、話し合う機会を持つ。

イ 介護支援専門員から地域包括支援センターに受けた相談内容を整理し、効果的に相談対応が行えるようになる。

方針(3) 介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるように支援する。

ア 介護支援専門員がケアプランに社会資源を位置付けたり、防災について検討するために、地域状況等を把握できるような機会を持つ。

4 地域ケア会議の推進

方針(1) 個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。

ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、課題解決に向けて検討する。

方針(2) 自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、地域課題を抽出し整理する。

ア 自立支援型ケア会議を実施し、多職種で地域課題を共有し整理する。

5 介護予防ケアマネジメント業務

方針(1) 自立した生活のための能力維持と向上を図り在宅生活を支える。

ア 介護予防について広報紙による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動をすすめる。

イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス・

活動等、住民主体の支援などの活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。

ウ 高齢者が、自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

6 生活支援体制整備の推進

方針(1) 生活支援コーディネーター等と連携し、地域における課題解決の

ネットワークの構築に努める。

ア 高齢者やその家族を支える地域の多様な社会資源を把握する。

イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場をつくり、課題解決に向けた取組みをすすめる。

7 認知症施策の推進

方針(1) 認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。

ア 小中学生や高校生を含む幅広い世代や企業等を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、対象者にわかりやすく伝え理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。

方針(2) 認知症の早期発見・早期対応に努める。

ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を、居宅介護支援事業所や民生委員等に行い早期発見につなげる。

イ 「認知症相談センター」として、早期に適切な医療・介護・社会資源につなげる。相談内容に応じて認知症初期集中支援チームにつなぎ、連携して在宅での生活支援を行う。

資料 5

2021年度地域包括支援センター事業等収支予算集計表

(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	77,558,000	77,558,000	0
城崎・竹野地域包括支援センター	34,763,000	34,763,000	0
日高地域包括支援センター	40,055,000	40,055,000	0
出石・但東地域包括支援センター	40,351,000	40,351,000	0
全地域包括支援センター合計	192,727,000	192,727,000	0